

ISEGB2022 派遣学生 活動報告

北里大学大学院理学研究科
生物科学専攻博士課程 3 年
萩田 悠作

この度、2022 年 3 月に行われた ISEGB2022 にて、派遣学生として口頭発表をさせて頂きました北里大学の萩田です。本シンポジウムでは生物進化からガン細胞まで、幅広い領域の生命現象の解明を目的として、バイオインフォマティクスの技術を駆使して研究されている学生・先生方が参加されていました。コロナ禍の中、私はオンラインでの参加となったことが非常に残念ですが、パソコンの画面越しに台湾の研究者との国際交流をすることができたことをとても嬉しく思います。

私の口頭発表セッションでは、オンラインツール Webex を通して、現地の台湾の方々に脊椎動物の SOX ファミリーオオノログの分子進化解析についての研究発表をさせて頂きました。本セッションは私たち日本の学生 2 人と台湾の学生 3 人の口頭発表で構成されており、各学生質疑応答含め 15 分ほどの発表を行いました。口頭発表の出来については、何度も練習をした事もあり、私の中では及第点といったところでしたが、質疑応答の際には、オーガナイザーの Chen-Ching Lin 先生（国立陽明交通大学）からの質問を聞き取ることができず、うまく答えられませんでした。発表後に Webex 上に残されていた会話ログでその質問の内容をチェックしたところ、かなりクリティカルな質問内容であったため、英語力の足りなさ故に対応できなかったことをとても後悔しております。

印象に残っているのは、台湾の学生の研究遂行能力と語学力です。流暢な英語から繰り出される沢山の解析データとその解説、そして主張に圧倒され、私も負けていられない、と感じました。コロナ禍の中、国際的な交流が希薄になっている現在、日本国内では感じる事のなかった「このままではいけない、努力しなければ」という危機感を覚えることができたことは、今後の私の研究活動の糧になると思います。

このような国際交流の機会を与えてくださった日本遺伝学会の皆様、および大会主催の国立陽明交通大学、大阪大学タンパク質研究所の皆様に深く御礼申し上げます。

プロフィール：

萩田 悠作 （おぎた ゆうさく）

神奈川県小田原市出身。北里大学理学部生物科学科卒業。同大学大学院博士課程 3 年（2022 年 3 月現在）。2022 年 4 月から総合研究大学院大学先導研ポスドク。学部生 2 年次にフライングディスク競技「アルティメット」の U-19 日本代表を経験。趣味はカラオケとバスケ観戦。

ISEGB 2022 派遣学生 活動報告書

京都大学医学研究科
医学専攻博士後期課程 3 年
北尾晃一

2022 年 3 月 12 日、13 日に台湾で開催された International Symposium on Evolutionary Genomics and Bioinformatics 2022 (ISEGB2022) に日本遺伝学会からの派遣学生として参加した。例年は日本・台湾間での学生の相互交流の一環として、現地滞在による研究交流も行われるが、今回はコロナ禍のために日本からの参加はオンラインで行われ、私は 15 分間のプレゼンテーションを行った。ゲノム解析からウイルス由来遺伝子を同定する方法論について、カモノハシやハリモグラなど卵を産む哺乳類（単孔類）で我々が発見した 3 つの新規遺伝子を具体例に研究報告を行った。同じプログラムの中で、台湾で発表している学生の研究は、シングルセル RNA-seq 解析や機械学習を組み合わせた手法の開発に重きを置いた発表が多い印象で、最新技術を駆使して新しい生命現象の切り口を見つけようという同世代の熱気が感じられた。シニア研究者の中では、カブトムシの形態やサンゴ礁生態にゲノム解析でアプローチする研究が興味深かった。ゲノム学の研究対象としては独自性の高い生物と思われるが、一般的な進化理論や生態学にインパクトを与えうる研究結果は凄みを感じられ、勉強になった。私の研究対象であるウイルス由来遺伝子は、重要な遺伝子がモデル生物に見つかるとは限らない。そのため、意図せず少し変わった生物で研究することになるのだが、サンプリングや実験上の困難に直面しては攻めあぐねる日々が続いている。そんな私にとって、もっと頑張っただけ現象を突き詰めないと本当に面白い結果は得られないと思わせられた発表だった。

今回の活動報告書を執筆するにあたって、コロナ禍前の ISEGB の活動報告書を GSJ コミュニケーションズで読んでみたところ、現地での発表や数日間の現地研究室での滞在における研究者との充実した交流が生き生きと書かれており少し羨ましくなった。しかし、オンラインで今回の学会に参加できたことで、現地に行きたいという新しいモチベーションも得られた。いつか台湾の学会で発表するチャンスがあれば、ぜひ参加しよう。

北尾 晃一（きたお こういち）

京都大学農学部資源生物科学科卒業後、同大学大学院医学研究科医科学専攻を修了。現在は同大学大学院医学研究科医学専攻に所属し博士課程 3 年(2022 年度現在)。ゲノム科学から生物多様性を理解したいと考えている。趣味は盆栽、ランニング。